

活動報告

用件	羽田街道おもてなし清掃(42回)	日時	2019年9月1日 8:15-10:30
場所	湾岸道路(野鳥公園～大田市場)沿	記入	2019年9月2日 縄田良作
参加	111人(内、初42) 新調さん66人(1年生約40初)		



(時間)8:15-10:10 開会・掃除・閉会・解散
-10:30 運搬・ゴミ捨・道具・清掃

(配員)一般②③⑤約10 新調⑦⑧⑨約20
(道具)

リヤカー	2
猫車	0
竹ホウキ	9
緑ホウキ	1
手箕	9
くま手	0
ちり取り	1
スコップ(角,丸)	3,4
草刈鎌	15
トンブ	4



・(ゴミ)可燃16 資源11(缶3 ペット7 瓶1)袋

【全般】 残暑厳しき折、111人の方が参加されました。

- (1)市場西門前 いつも汚れている象徴的場所。植栽剪定と掃き上げで空気が変わるくらいになった。
- (2)流通センター駅前 先月から新調さん⑦班が対応。途中の道のごみ拾いと草取り・・・ややかきれいになった。
- (3)新調1年生徒さん 初参加。黄色い液体の入った容器にたじろいだことでしょう。(笑)

②【西門北】



③【西門南】



⑦【流通センター駅前】



(本活動の象徴的な場所)

- ・市場側植栽が剪定されていたので、国道沿い植栽を剪定
- ・縁石が見えるほど掃き上げ、車道側(右)もゴミ拾いと草取り

- ・車道沿いに雑草が点々 車と歩行者の目に触れる
- ・除草により、景色は一変

- ・17台の放置自転車
- ・カゴにポイ捨て、先月より始めた。今月は少なめ

【感想発表】 [区域]

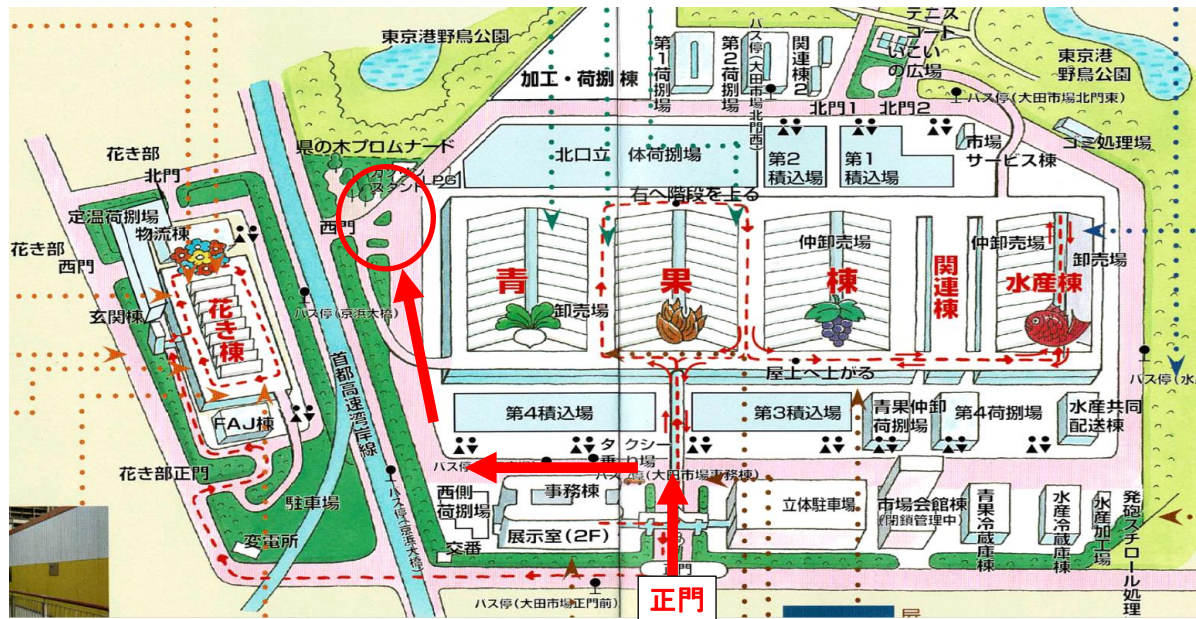
- ・② 一年ぶりに西門を清掃しました。一年前をよく覚えておらず、写真で前の状況を残しておけばモチベーションが上がるのでは→ レポートはすべてHPにあります。この1年で相当ごみは減りました(世話人)
- ・⑤ 初参加。私たちが来月掃除を計画しており、交流させて頂きたい。掃除好きの者がまだいます。(地元)
- ・⑦ ゴミ拾いと草むしり・・・普段新宿でやっていることが活かせなかったこともあり、勉強になった(学生)
- ・⑧ 一見きれいでも、一歩中に入ると大きなゴミや尿が入ったペットが多くあり、新宿と違いびっくり(学生)

【駐車】 大田市場様のご好意で、場内に駐車可となりました。次月より以下の要領をお願いします。(地図次頁)

- ①入場 正門から。詰所で「羽田清掃のため」と述べ「入場登録手続き」(当日限り臨時入場車両登録証発行)
- ②駐車 西門詰所前付近に駐車。「臨時入場車両登録証」はフロントガラス等目立つところに置く
- ③出場 正門から。(臨時入場車両登録証は返却不要)

【資料】

●大田市場の地図 (正門から入り西門詰所前付近に駐車)



●新宿調理師専門学校の生徒さんへ 学校がなぜ掃除を授業の一環としたのか考えてみましょう。(縄田)

○人生を良くする三つの幸せ 出典 LGA高橋佳子 宗教家 『掃除が起こした奇跡の力』鍵山秀三郎

人間にとって、一つ目の幸せは「してもらう幸せ」です。人は赤ちゃんのとき、お腹がすけば泣き、おむつが濡れれば泣きます。するとお母さんが来て、おっぱいを飲ませたりおむつを替えてくれます。すると気持ちよくなるから赤ちゃんは笑います。これが「してもらう幸せ」です。

二つ目は、「できる幸せ」です。字が書けるようになった、箸を使って一人でご飯が食べられるようになった。子どもはこれが嬉しくて、下手でも一生懸命にやろうとし、皆に見せようとします。これが「できる幸せ」です。

三つ目が一番大事です。「してあげる幸せ」です。疲れて帰ったお父さんの肩を叩いてあげたら喜んでくれた。お母さんの代わりに食卓にお箸を並べたら、「助かるわ、ありがとう」と言ってもらえた。そのお父さんやお母さんの喜ぶ顔を見て、自分も嬉しくなる。これが「してあげる幸せ」です。

今の日本は「成果主義」で、これは「お金にならないことは無駄」という考え方の裏返しです。このままでは誰もが「やってもらう」ことばかり求め、「してあげる」ことを豊かさだとは考えなくなってしまいます。日本の将来を担う子どもたちが、「してあげる幸せ」を知らずに育ったとしたらどうなることでしょうか。私が子どもたちにこの話をするのは、たくさん学び、友達と交流するなかで、たくさんの「してあげる幸せ」を見つけて実行し、味わってほしいと心から願うからです。

生徒さんの立場で考えてみます。「してもらう幸せ」は、例えば親御さんが学費を出してくれて学校に通える幸せ・・・「できる幸せ」は、包丁が使える料理が作れるようになった幸せ・・・「してあげる幸せ」は、ご両親に腕を振るった料理を作り「美味しい」と喜んでもらった幸せ・・・すなわち、三つの幸せは子どもから大人、それも立派な人間、立派な社会人になる心の持ち方の段階を表しているのです。だから、いつまでも自分のことしか考えなかったり親に面倒をかけるような人は、歳だけ大人でもまだ子どもなのです。

○『人生で大切なことはすべて厨房で学んだ』上神田梅雄 より。

- ・「人として一人前にならなければ、本物の調理師にはなれない」(西宮利晃先生、上神田先生の師)
- ・「天地自然の恵みを頂いて・・・健康で、美味しい料理を仕立てる料理人に、人格の陶冶は不可欠です」
- ・「洗い方三年をどのようにこなすかが、一流の料理人の道を歩むかどうかの「分水嶺」。修行の最初の数年間、掃除や洗い物、片付けに従事するのは、それらがどれほど大事なことを身をもって知るためです」

「掃除」は、「してあげる幸せ」の典型的な行為です。これほど多くの方が羽田街道に集まって下さっています。人に褒められるわけでもお金が貰えるわけでもない、しかも人の嫌がる汚い作業—「下坐行」といいます—を、他人のためにしている。今後社会に出ると、多くの人と付き合うことになります。その際、その人が「下坐行」のような行為に対してどういう考え方を持っているかを見ると、その人のことがよく分かると思います。



以上